

市長の伊賀じまん

— 琵琶湖のふるさと伊賀 —



滋賀県にある琵琶湖は、世界で最も古い湖のひとつです。この琵琶湖、ご存じでない人も多いかもしれませんが、実は伊賀で生まれたのです。

草津市には滋賀県立琵琶湖博物館があり、「琵琶湖のおいたち」として琵琶湖の歴史に関して展示と解説があります。そこでは約400万年前に上野盆地にできた大山田湖が少しずつ北上し、約100万年前に現在の琵琶湖の位置に移動したと紹介されています。大山田湖は古琵琶湖と呼ばれ、湖の周辺にはゾウやワ



滋賀県立琵琶湖博物館のA展示室では琵琶湖の成り立ちを学ぶことができ、上野盆地にあった大山田湖が琵琶湖の最初だと紹介されています。

大山田せせらぎ運動公園の化石広場には大山田で発見されたゾウやワの足跡の化石を忠実に再現した複製を展示しています。



二がいました。それらの足跡の化石が多数出土していて、大山田せせらぎ運動公園に展示があります。

近畿地方の文化を育んだと言える琵琶湖の水。そして、その琵琶湖を生んだ土地、伊賀。伊賀の地は太古から、水を通じて近畿に深く関わってきたといえるでしょう。

芭蕉翁は終の棲家を近江の国に求めたわけですが、「行く春を近江の人と惜しみける」という句を詠んでいて、琵琶湖の春霞を見てやすらぎを感じていたことがわかります。芭蕉翁を生んだ伊賀市は、近畿文化の母である琵琶湖をも生んだ地であったことを私たちは忘れずにいたいものです。

(伊賀市長 岡本 栄)

防災ねっと

災害時要援護者を支援します

■災害時要援護者名簿の作成

市では、災害が起こったときに、自分で避難したり情報を集めたりすることが困難な高齢者や障がい者など（災害時要援護者）を、各地域で支援できるよう災害時要援護者名簿を作成しています。

これは、災害時要援護者台帳への登録と個人情報の提供に同意いただいた災害時要援護者の名簿です。

■地域での取り組み

名簿の提供を受けた各地区住民自治協議会などは、災害が起こったときに、この名簿を活用し、要援護者への災害情報の伝達や安否確認、避難の支援など行います。

また、平常時には、それぞれの地域の実情に合わせ

て、地域での避難訓練や避難マップを作るなど、安心安全のまちづくりに役立てていくことになっています。



■自身の取り組み

災害時には誰もが被災者です。台帳への登録に同意した人も含めて、皆が常に自分の身は自分で守るという意識をもって、避難に必要な取り組みを行い、普段から地域で気軽に話せる関係を築くことを心がけましょう。

【問い合わせ】

総合危機管理室 ☎ 22-9640 FAX 24-0444

「あんしん・防災ねっと」 URL にアクセスすることで、災害時の緊急情報・避難所情報や休日・夜間診療所情報などを閲覧できるほか、携帯電話のメールアドレスを登録した人には、市から緊急情報メールを送信します。(http://www.anshin-bousai.net/iga/)

※携帯電話のバーコードリーダ機能で、QRコードを読み込んで登録できます。

※本庁・各支所・伊賀市社会福祉協議会（ふれあいプラザ）のほか、市内の各地区市民センターにおサイフケータイを利用した登録機を設置しています。簡単に登録できますのでご利用ください。



▲QRコード

伊賀警察署だより



インターネット利用犯罪にご注意を

インターネットを利用すると、さまざまなサービスが提供され、簡単に必要な情報を活用することができるので大変便利です。しかし、便利なインターネットにはさまざまな危険が隠れています。

最近では、スマートフォンなどを利用し、インターネット上の出会い系サイトや掲示板、ゲームサイトなどで知り合った人から「強制わいせつ」「児童買春」などの被害にあう場合が少なくありません。

被害にあわないように、次のことに心がけ、ご家庭でもインターネットの危険性について話し合うなど、被害の防止に努めましょう。

- 興味本位で出会い系サイトなどにアクセスしない
- ネット上に学校名や住所、メールアドレスなどの個人情報をもやみに書き込まない。
- 自分の写真を不用意に掲載しない。
- 携帯電話には、必ずウェブページなどを一定の基準で排除するフィルタリング機能を設定する。

【問い合わせ】 伊賀警察署 ☎ 21-0110
名張警察署 ☎ 62-0110

公共交通を利用しましょう

「しらさぎ時刻表」が新デザインに

上野コミュニティバス「しらさぎ」の時刻表のデザインが、新しくなりました。新しい時刻表の表紙は、伊賀市出身のイラストレーター古川タクさんが描いた芭蕉さんが、バスに乗りこもうとしているデザインになっています。また、裏表紙は、利用者の皆さんに分かりやすいよう工夫された路線図を掲載しています。市役所本庁受付、ハイトピア伊賀1階観光案内所、上野総合市民病院、大型商業施設などに設置していますので、ぜひ携帯ください。



市内のバス路線は、「しらさぎ」のような「コミュニティバス・行政バス」、民間事業者が廃止した路線を行政が運行する「廃止代替バス」、「三重交通バス」の3種類があります。皆さんの利用によって支えられているバス路線を守るため、バスに興味を持ち、乗る機会を増やしてみましょ

【問い合わせ】
企画課 ☎ 22-9621 FAX 22-9628

明日に向かって ~差別をなくしていくために~

中世の文化と差別された人々 -文化財室-

■このコラムは毎回いろいろなテーマで人権についてお話しています。

中世の頃（平安時代の終わり頃～室町時代）の人々は、人の生死や自然の変化など人間の力の及ばないことが起こることをケガレと呼び、大変畏れていました。ケガレに関わって生活したり、それを仕事にしたりしている人を「何か特別な自分たちとは違う人」と考えたようです。また、この人たちが住む河原はケガレを「キヨメ」る場所であり、人間の力の及ばない特別な場所と考えられていて、人々は「河原者」と呼ばれ、食事やつきあいなど、日常生活を一緒にしないなど避けられていました。

金閣寺・銀閣寺に代表される北山一東山文化が生まれた室町時代には、多くの禅宗寺院の庭が造られています。それらを造ったのも河原者と呼ばれた人々でした。庭造りの名人といわれた「善阿弥」は八代将軍足利義政の時代に活躍しました。世界遺産の銀閣寺（慈照寺）などの庭も、その子孫三代の庭師で完成したと言われています。

将軍が、文化的素養を高めるため側に置いた文化人の中には、善阿弥のような河原者もいました。当時の人々にとって、水、石、土、木などには自然界の霊力が宿っていると信じられていて、それらを動かす行為は畏られることでしたが、庭師はそのケガレをとることのできる異質な人々として重用されていたのです。彼らは、将軍の権威を背景に、立場を高めていきますが、それでも社会的蔑視から逃れることはできませんでした。「鹿苑日録」という日記には、善阿弥の孫「又四郎」が差別される立場の悲しみを親しい僧につぶやいた言葉が記されています。

当時差別されていた人々が生み出した文化には、わが国の伝統文化の礎となり受け継がれるものがたくさんあります。こうした人々に思いを寄せながら、日本の伝統文化を、新たな視点から見つめてみることも大切ではないでしょうか。

■ご意見などは人権政策・男女共同参画課 ☎ 47-1286 FAX 47-1288 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ